

科目「高校美術」選択 シラバス

1. 高校3年間での教科到達目標

①絵画、立体、デザイン、工芸を中心に表現手段の基礎を学び、造形的な創造の能力を伸ばす。	②作品を創り出す喜びを味わいながら、自己と向き合い表現することとは何かを学習する。	③ 芸術を愛好する豊かな情操を育み、個性を認め合う、柔軟でおおらかな鑑賞力と知識を習得する
---	---	---

2. 科目の到達目標と評価の観点

（教科名）美術 科目 美術 1	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2単位	第1学年	教科書：美術1 光村図書 副読本：新造形と美術 浜島書店
学習の到達目標	豊かな鋭い感性を働かせることにより、美術を自己表現の手段として考え、創造していく技術や、描写力、発想力を身に付けていく。 デッサンや油絵、デザイン、版画、工芸、芸術鑑賞など様々な制作活動を通して造形的な創造の能力を伸ばす。		
評価の観点	＜知識・技能＞ 造形の基本となるデッサン力を身につける。 対象物をよく観察し、考える力をもつ。		
	＜思考力・判断力・表現力＞ 作品に対する思考や責任感。個性豊かな表現力を評価する。		
	＜主体性・多様性・協働性＞ 授業中の主体性を持った制作態度と、個々の作品を認め合う柔軟でおおらかな視点を評価の対象とする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
 D：未提出、未実施・・・0%

【教科横断、外部との連携】

- ①授業中制作した生徒の作品を公募展に積極的に出品する。
 ②日本、世界史を踏まえて、美術史を学び、多くの芸術的作品を鑑賞する。

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	美術ガイダンス	○一年間を通じて教科書と副読本を活用する。 ○油絵の具セット購入申し込み用紙配布。	○美術の授業に必要な道具類の把握。教科書と画材等に、名前記入をすることで紛失予防の徹底。
4 月	① 美術の教科書紹介 ② 美術の授業でのパソコンの扱い方の説明。	○ネット上の画像検索の仕方についての注意点を、生徒に周知させる。	○パソコン、備品の扱い方の周知で生徒の制作が行いやすくなる。 ○欠席者への配慮。
	○1学期課題 「人物デッサン、クロッキー」 デッサン基礎を学ぶ。	○人体の骨格を意識し、より自然な形を描きたい。 ○生徒がモデルとなりデッサンすることで、新しい発見を期待する。 ○人物の自然な形、動きを観察し素描（デッサン）する正確なフォルムを描けるようにデッサンの枚数を重ねる。	○必要な用具。 ①コンテ ②練り消しゴム、 ③クロッキー帳 ○生徒がモデルになる。 1人につき10～15分のポーズ。 ○クロッキー帳提出。
	○油彩画「静物画」 卓上のモチーフを描く	○過去の参考作品を鑑賞する	○用具の説明。 ○構図の工夫、下描きのデッサン
5 月	①エスキース	○クロッキー帳にコンテ、鉛筆を用いてエスキースを描く。	○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 欠席者に対応。
	②キャンバスに下描きを行う。	○構図を学ぶ。 (縦、横自由)	○必要な画材 ①F10号キャンバス ②コンテ ③フィキサチーフ
	③油絵の具で着色。	○エスキースをもとに、キャンバスの画面に下描きを描き、定着剤（フィキサチーフ）をかける。 ○油絵の技法を実践しながら学ぶ。	○様々な技法を着彩しながら習得する。 ○参考作品を鑑賞し、自分の作品制作のヒントになれば取り入れる。

6月	①油絵の技法を学ぶ。 下層描き ②描写 絵の具層を重ねる。 ③描写 ペインティングナイフ を用いて描いてみる。 ④上層描き 細部の描写。 画面の統一感。 乾性油の調節。 仕上げ ○油彩画提出。	技法を紹介したプリントを 配布する。 ○モチーフをよく観察し、明 暗、陰影を意識して下層描 きをする。 ○絵の具を重ねて描く表現を 学ぶ。 ○筆以外の画材も、積極的に 使い、慣れることで、新し い表現方法を模索してい く。 ○仕上げに向かって、細部か ら全体のバランスを考えな がら描きこんでいく。 ○乾いていない状態の加筆の 仕方。 ○作品画面のサインを描く。 ○作品の裏側に名札を貼る。 題名を考え、必ず名札に 描く。	○プリントの内容を確認しな がら制作を進める。 ○描写の注意点 ①固有色にこだわらない。 下層に描いた色が、後に 画面の表情に現れ豊かな 色あいをみせる。 ②絵の具の混色の工夫。 ③透明、不透明な絵の具の 使い分けを学ぶ。 ○表面が乾いていない状態の 絵の具ののせかた ○細部の描写 豚毛筆以外の画材も使う。 ○油彩画提出場所は教室内の の乾燥棚。 ○作品の名札の確認。 ○夏休みの課題説明プリント 配布。
夏 休 み 課 題	○夏休みの課題 「美術館に行こう」 自分選んだ画家について レポートする。 画材は自由。 画用紙1枚に描く。	○題材となる画家や作品は各 自で選択する。 ○美術館に行き実際の作品を 鑑賞することが望ましい。 観に行けない場合は、画 集、ウェブサイト等を使い 作品を見ること。 ○画用紙1枚分を自由にデザ インしレポートする。	○各自のスケッチブックを用 いて画用紙1枚にレポート する。 ○画材は自由。 写真の貼り付け、絵の具、 色鉛筆、ペンなど自由に 使用して良い。 ○参考作品の画像を配信す る。 ○2学期最初の授業内に提出 をする。

2 学 期 9 月 10 月	○2学期課題 モザイク制作 「モザイクの木箱」 ①エスキース ②下描き ○文化祭の展示のための 作品準備。 ③モザイク貼り 2面分を貼り付ける。 ④セメント入れ	○伝統的な技法を用いてモザ イク制作する。 ○表面を合わせ、2面以上に モザイクを施すこと。 ○教科書の参考作品と、過去 の美術の授業で制作した参 考作品を鑑賞する。 ○木箱サイズに合わせ、下描 きを完成させる。 ○1学期課題作品、夏休みの 課題の展示用の準備を行 う。 (名札、台紙貼り、ファイ ル) ○下描きをもとにモザイクを 切り、画面に貼りつける。 ○下描き線にあわせてモザイ クをカットし貼り付けるこ とで、絵柄がはっきりと見 えてくる。 ○木工用ボンドの使う量の調 節をする。 ○モザイク入れが完成したら モザイクのパーツの間に、 セメントを入れる。 ○均一にセメントを入れた後 ゴムベラでモザイクの表面 をなぞる。	○テーマは自由。 模様、草木、花、キャラク ターなど自由に考え、エス キースを描く。 ○参考作品の鑑賞をして、 自分の制作のアイデアの ヒントにする。 ○欠席者に対応。 ○ロイロノートにレクチャー 画像を配信する。 ○美術係を中心に授業中に制 作した作品の展示準備を行 う。 ○材料の紹介、使い方の説明 をする。 ○モザイク貼りに必要な画材 ①カッター ②木工用ボンド ③ピンセット ④ようじ ⑤カッターマット ○ロイロノートにレクチャー 画像を送る。 ○生徒の作品に個々に対応す る。 ○セメント入れに必要な用具 ①割烹着 制服が汚れるのを防ぐた め。 ②セメント ③水 ④ボウル ⑤ゴムベラ ⑥ウエス
---	--	---	--

11月 2学期	⑤乾燥 ⑥2面分のセメントを入れる。 (2面以上制作している生徒がいる場合、対応する) ⑥ステイン塗料を塗る。 ⑥仕上げニス塗る。 ⑧作品提出 名札を貼って提出。	○ウエスで表面をふき、モザイク板の色を出す。 ○モザイク面が白っぽくならないようによく拭く。 ○木箱全体にステイン塗料をぬる。 参考資料を確認し、色を決める。 ○モザイクにステイン塗料が付かないように注意する。 ○モザイク木箱全体にニスを塗る。 ○提出場所は教室内の乾燥棚	○ウエスを水で濡らして作業 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 個々の欠席者に対応した配信を考える。 ○作業工程の注意点 ①セメントは時間が経つと固まってしまうので、作業を効率的に行う。 ②自分が使用した用具を責任をもって洗う。 ○ステイン塗料 マホガニー、チェスナットオークなどがある。 ステイン塗料ではなく。アクリルガッシュ絵の具を用いて塗ってもよい。 ○塗装用の刷毛は、細いものを使う。 ○仕上げニスは一度塗りだけでよい。 ○木箱の底を浮かせて、乾燥させる。 ○自然乾燥。
12月	○映画鑑賞 主に名画として紹介されている作品を観る	○芸術分野の表現方法は多岐にわたっており、映画の世界も大変興味深い作品がある。 優れた作品を観ることで、作品の芸術性にふれ、触発され、新しい自己表現に繋がっていくことをめざす。	○鑑賞した後、感想文の提出

	○作品提出の確認。 ○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像の提出を促す。	○作品に名札を付けていない生徒に連絡する。 ○作品未提出者に連絡する。	○欠席者に対応 ロイロノートに画像を提出もしくは作品実物を美術準備室に提出する。
3 学 期 1 月 2 月	○3学期課題 「心象風景」 油彩画 F6号 ①エスキースを描く ②F6号キャンバスに下描きを描く。 ③油絵の具で着彩する。 ○「心象風景」油絵提出 ○講評 生徒同士の作品を鑑賞する	○一学期に油絵の技法を学んだが、この課題では、さらに技法を学びながら、自己表現に重きをおき、自由に描くことをめざす。 ○クロッキー帳にエスキースを描く。 ○コンテ、木炭を用いてキャンバスに下描きを描く。 ○画面に定着剤（フィキサチーフ）をかける。 ○油絵の古典的な技法も学びながら、自己表現に繋げる効果を模索する。 ○作品にサインを描き入れる。 ○作品に名札を付け乾燥棚に提出する。 ○他の人の作品を観ることで、美術の多様な世界観を享受する。	○教科書P ○参考作品を鑑賞し、自分の作品のヒントになるものを探す ○必要な画材 ①クロッキー帳 ②コンテ ③フィキサチーフ ④F6号キャンバス ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。 欠席者に対応する。 ○参考資料と、作品をロイロノートに画像配信する。 油彩の技法 ①白色浮出 ②透層 グレーズ ③筆の扱い。 ○名札の付け忘れの確認。 ○来年度の文化祭に展示予定 ○気になった作品のコメントを書く。 ○欠席者に対応。 ○ロイロノートに自宅用課題の画像を提出する。

3 学期 3 月	○自分の感想や考えを文章、もしくは発言する。	○多様な芸術表現を、どう観るか、それぞれが考えるきっかけになるように授業を進める。	○講評を通して、個性を認め合い、芸術の幅を広げる機会になることを期待している。
	○3学期課題の提出 ①「心象風景」油絵。 ②自宅の課題の提出。	○欠席者に対応。 ロイロノートに作品画像を提出。	○欠席者に対応。 学校登校時に作品実物を提出するように連絡する。

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> ○対象をよく観察し描写することができる。 ○表現する内容を深く思考する能力がある。 ○丁寧な作業工程である。 ○芸術に対して好奇心をもち、工夫をすることができる。 ○作品の完成度を高め、仕上げるることができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の作品への取り組み方。 ○授業中の制作態度。
<思考力・判断力・表現力> ○個性豊かな感性であること。 ○アイデアなどの発想力が豊かであること。 ○作品の内容を深く思考することができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の制作態度。 ○制作途中のスケッチブックのエスキース。
<主体性・多様性・協働性> ○画材や道具を正しく扱うことができる。 ○制作の準備を整えることができる。 ○教室内の片付けを行うことができる。 ○他の人の作品に対し、認め合い配慮することができる。	○授業中の様子。 ○授業後の片付けの様子。 ○画材の扱い方。 ○文化祭の準備の様子。 ○画材の忘れ物

【提出物状況の評価基準】

- A：作品が完成した状態で提出期限を守り、名札を貼っている。
 （ロイロノートに画像を提出した場合、個別に対応する）
 B：作品は完成し、名札を貼っている状態だが、提出期限を守っていない。
 C：「努力を要する」状況と判断される
 D：作品未提出の状態。